

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

[f http://www.facebook.com/NPO.JYFA](http://www.facebook.com/NPO.JYFA) @jyfa

ブログ [雲南の郵便屋さん]

検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第57号

会報

発行日 2016年(平成28年)5月15日

教育が未来を創る

—「25の小さな夢基金」設立10周年を迎えて

子どもたちが学校へ通えて当たり前の日本。しかし、雲南省の25の少数民族の中には、家庭の貧しさと「女性は家事をするもの」という古い社会観念のために学校に通えない女子児童がたくさんいます。そうした女子生徒たちを1対1で支援する協会のプロジェクト「25の小さな夢基金」が、今年10周年を迎えました。

雲南省昆明市にある昆明市女子中学校は、1908年に開校した雲南省で唯一の女子校です。1997年、成績優秀で強い向学心を持ちながら、高校教育を受ける機会のなかつた少数民族の女子のために、学費免除の「春蕾班(高校)」が開設されました。全寮制で生活しながら、「自らの手で人生を切り開こう」と勉学に励み、卒業生の多くは雲南省内の行政機関や教育現場で活躍しています。



2006年初めての昆明市女子中学訪問

初鹿野恵蘭理事長が2006年に同中学校を訪問、女子生徒を支援する必要性を痛感したことから「25の小さな夢基金」は誕生しました。同基金は、春蕾生が安心して学業に専念できるように生活費の一部として支給されています。

また、経済的な支援だけでなく、一人の女性として幅広い知識や教養を身につけてもらおうと、協会は2009年に「夢は叶う講演会」を始めました。日本の企業関係者や医師、スポーツ選手などを講師に迎え、今年で7回目になりました。さらに2013年からは上海日本人学校高校部

を訪問する交流活動を実施。春蕾生の代表が同世代の日本人高校生とともに授業を受け、互いの文化を体験し合い、和気あいあいのうちに相互理解を深めています。

2015年、国連加盟国161国が参加して「国連持続可能な開発サミット」が開かれ、「持続可能な開発目標」が採択されました。その中で示された「我々の世界を変革する: 持続可能な開発のための2030アジェンダ(行動計画)」は、女性の権利と機会が否定されている限り、世界の持続可能な発展は達成できず、女性・女児は男性と同等の質の高い教育を受けるべきだと指摘しています。協会の一環がある春蕾生の故郷の村を訪問した際、母親というには若過ぎる少女が赤ん坊を抱き、幼なじみの春蕾生を見つめる姿がありました。このアジェンダが提示する「男女の平等を達成し、すべての女性・女児の能力強化を行う」ことの重みを痛切に感じます。



国連SDGsのロゴ

第7期生卒業式
2015年7月1日



が68名いました。これも年度を重ねる毎に増える入学者数が2年前(現在の3年生)より年100名ほどおり、現在春蕾クラスの生徒数は288名が在籍しています。このことから支援者がなかなか決まりやキモキしていましたが、この度中国蘇州を中心とする企業家9名により68名の支援が決定しました。これまで98名全員の支援が漸く決まりホッとした。この決定を受け4月24日初鹿野理事長と林理事が名簿と申し込み書を携え蘇州を訪問、皆様からの心地良い歓迎を受け名簿の授受が行なされました。皆様からは「このような基金があったことは知らなかった。今後はもっと周りに春蕾クラスについて積極的に伝えていく」とのこと。今年の新入生も積極的に応援していきたいと目を輝かせていました。

また、25日には蘇州に本社を置く「蓋網」グループ(ネット流通サイトの経営)より法人会員の株式会社キツツ様のように社内有志による共同支援をしたいと申し入れがありました。当日会社事業説明会へ急遽参加。プレゼンテーションの中で、CSR活動をより重視し今後協会の「夢基金」

へ会社ぐるみの支援を実行すると宣言。壇上では初鹿野理事長と蓋網グループ様との覚書が取交わされました。これにより来期より安定した基金運営ができることが予想されると共に、より一層の支援活動が活発になることとなるでしょう。

第一期生卒業式 左から4人目が陳紹仙さん



英語の先生になった陳紹仙さん



蘇州など企業家



蓋網事業説明会



まだ幼いお母さん





中国
出張

初鹿野惠蘭理事長、林則幸理事、曹光顧問が4月12日から26日まで、雲南と重慶、蘇州を訪問しました。雲南では2014年8月に起きた魯甸県地震の被災地に支援金を届け、雲南省の政府機関や大学、現地NGOなどを訪問。このほか、雲南省を管轄する在重慶日本国総領事館を表敬訪問し、蘇州では「25の小さな夢基金」のサポーター9名と会い謝意を伝えました。

1 雲南省魯甸県地震 皆様からの募金を現地政府に届けました 震災孤児学資金として現地政府と協議締結



初鹿野惠蘭理事長、林則幸理事、曹光顧問と雲南支部職員1名はこのほど、2014年8月に雲南省昭通市魯甸県で起きた地震の被災地、龍斗山鎮を訪れ、被害状況と復興の取り組みを視察しました。同地震による死者は800名を超え、行方不明109名、被災者は110万人に達しました。協会には会員や関係団体からこれまでに2,170,767円の義捐金が寄せられ

▶両親を亡くした震災孤児の中学生

されています。

被災地には、震災で両親が亡くなったり、行方不明になったりした子どもも多く、親族の家に身を寄せている彼らは心の傷を背負ったまま成長していかなくてはなりません。また、平均世帯年収が9万円に届かないこの地区での里親の負担と、中学校卒業以降の学費補助がないことを考えると、震災孤児たちが勉強を続けることは経済的



▶地震で被害にあった魯甸県龍斗山鎮政府に困難です。

このため協会は、皆さんからの募金をもとに孤児たちの高校進学やその他の教育資金支援を行なうことで昭通市橋務弁公室や魯甸県政府などと合意、4月16日に調印式を行ないました。今後、孤児たちの進学希望などを調査し、進学資金を交付します。この震災孤児基金事業は長期に渡るため、引き続き皆さんのご支援をお願いします。



▼地震で大きな被害を受けた龍泉中学を訪問



▼両親を亡くした震災孤児の小学生現在、親族の家に身を寄せている



2 雲南4大学訪問 震災孤児学資金として現地政府と協議締結

初鹿野理事長らは4月18日と20日、協会と提携する4大学を訪問し、各大学の外語学院院長などと今年度の活動について打ち合わせました。会議では「グローバルリーダー育成プロジェクト」などを中心に、協会が人材育成に協力していくことを確認しました。また、高校生の進学・就職支援、外国人の日本留学支援を行う法人会員「さんぽう」の小笠原大八さん（国際事業部中国担当）が、各大学で日本への留学誘致フェアを実施したいと伝え、教育機関の交流を



進めることでも合意しました。協会は今後も様々な交流事業を展開し、日雲関係をさらに強めています。

雲南師範大学



雲南大学滇池学院



雲南民族大学

3 雲南省NGO 文化自然遺産団体との交流

協会と外部団体との協力関係を強めるため、初鹿野理事長らはこのほど、昆明市のNGO団体「雲南自然与文化遺産保護促進会（YNC）」を訪問しました。

YNCは音楽を通じて雲南の自然遺産保護を訴えています。北京で活躍する作曲家・方兵会長と同会の趣旨に賛同する新聞記者や演奏家が、コンサートやCD製作、SNSなどを通じて活動を展開しています。多くの自然遺産が存在する少数民族地域での活動は、協会との接点も多いため、関係強化について協議してきました。



4 在重慶日本国総領事館表敬訪問 協会との関係強化を推進

初鹿野惠蘭理事長と林則幸理事は4月19日、雲南省、四川省、貴州省、重慶市のNGO活動などを調査、支援している重慶市の日本総領事館を表敬訪問しました。

鶴岡千晴首席領事、堀喜文経済担当官、楊艶補佐と、雲南省のNGOの現況などについて話し合いました。協会がかつて行った100万回手洗い運動、「50の小学校プロジェクト」支援16校目・日中友好巴坡僑心小学校の建設などは高く評価され、鶴岡首

▶右より堀喜文経済担当官、楊艶補佐、初鹿野惠蘭理事長

席領事には「助成金など積極的に協会をサポートしていきたい」とのお言葉をいただきました。



5 雲南省4政府機関と 今後の協会活動支援について協議

協会の一環はこのほど、現地活動に欠かせない自治体や教育関係者との調整に協力していただいている雲南省政府4機関と協議を行いました。

初鹿野理事長、林則幸理事、曹光顧問、林娜（雲南支部職員）が、雲南省招商合作局をはじめ雲南省橋務弁公室、雲南省海外聯議会、雲南省政治協商委員会などを訪問し、来期に向けた各事業について説明。各機関から協力内容について提案を受けました。話し合いで魯甸県地震への震災孤児支援や既存の文化交流事業以外の新たなアイデアも出て、今後の協力体制と日雲間でさらに民間関係強化を進めることを確認しました。



▶雲南省橋務弁公室

連載

こんにちはCSR

第13回●昭和情報プロセス株式会社

会社概要紙媒体の印刷・製本を中心に、CD,DVDやデジタルブックの製作、オーディオマニア印刷、大量の文書などを効率的に管理する「デジタル・アーカイブス」など幅広く業務を行う印刷会社。2007年12月にISO14001、2004年の認証を取得し、環境管理活動を継続的に行っている。

本社所在地
〒108-0073 東京都港区三田5-14-3
TEL : 03-3452-8451 FAX : 03-3452-3294
HP : <http://www.showa-joho.co.jp>

今、皆さんがご覧になっている協会会報誌「彩雲の南」、とても鮮やかだと思いませんか? 協会の思いの目に見える形でデザインし、それを紙の上に再現しているのが「昭

和情報プロセス株式会社」です。

中村栄一さんが会長を務める昭和情報プロセス㈱は、終戦直後の1946(昭和21)年に「日本の復興に役立ちたい」との想いから出発し、このたび創業70年を迎ました。この間、日本経済の好不況や急速な技術革新、出版不況の荒波を乗り越え、書籍印刷を核とするデジタル化時代の情報関連企業へと変貌を遂げてきました。

協会との縁の始まりは、協会設立大会の看板を作っていただいたことです。協会の活動が、麗江大地震の復興支援を原点とし

-協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ-

た少数民族の子どもたちの教育支援と聞き、建設系のご出身で地震災害にも詳しい中村会長には、支援の困難さが容易に想像できただろう。以来、「会社としてできる応援を」と会社は法人会員に、また中村会長ご自身には個人会員としてご支援をいただいています。

長年の協会サポーターながら中村会長は「中国に行ったのは2回ほど。雲南省には行ったことがないんです」と苦笑い。奥様は太極拳の師範免状をお持ちで、太極拳の講習を受けるために頻繁に中国を訪れており、中国や雲南省に関してはどうやら奥様の方が情報通のようです。奥様は雲南省の風物の中

でも、特に草花に興味をお持ちとのことで、中村会長も「いずれ雲南を訪ねてみたい」とおっしゃっています。



中村栄一会長

※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) : 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

アジア未来への人材育成プロジェクト

第8回 インターンシップ プログラム in 雲南支部

雲南で日本語を学ぶ大学生からの「日本語を使った職場体験をしたい」「実践的な日本語を身につけたい」といった要望にこたえ、協会の雲南支部インターンシップ事業は2012年に始まりました。

今回は、雲南民族大学日語科4年生4名が3月7日から4月1日まで参加。任晃斌さんと玉尖馮さんの感想をご紹介します。

今回の日本雲南聯誼協会のインターンシップに参加した雲南民族大学の任晃斌です。時間の流れは本当に早く、4週間はあつという間に過ぎました。毎日朝9時から夜6時まで、事務所で翻訳や調べ物など様々な仕事をしました。仕事が終わって大学の寮に帰ったらもう夜です。少し疲れますが、とても楽しかったです。今回のインターンシップを通して、社会人の辛さ、仕事の大変さを味わうことができました。まもなく社会人になる私にとって大切な経験だと思います。

任晃斌



任晃斌さん

今回のインターンシップに参加させていただいた雲南民族大学の玉尖馮です。卒業後は日本語を使った仕事に就きたいと思い、今回のインターンシップに参加しました。仕事は手紙の翻訳や春雷生のプロフィールの整理などです。手紙を翻訳する時、サポーターからの手紙を読んで私も励まされたような気がして、手紙を書いた人の気持ちがちゃんと伝わるように丁寧に翻訳しなければならないと思いました。今回のインターンシップを通して、協会の仕事を理解することができ、自分のしていることはとても有意義だと思いました。いい経験になりました。

玉尖馮



玉尖馮さん

協会ボランティア 通信 連載 第10回

張昱さん／季瑞穎さん



昨年9月から短期交換留学生として来日していた雲南大学日本語学科4年生の張昱さんと3年生の季瑞穎さん。張さんは日本のダンスが大好きで、留学中にダンススタジオに通っていたほど。現在、雲南大学国際協力協会会長を務めている季さんは、元々日本文化に関心があり、その中に消えてしまった中国文化の片鱗を発見することに興味があるようです。

二人とも「25の小さな夢基金」の支援生徒が学ぶ昆明市女子中学春雷クラスで、ボランティアの日本語教師をしています。来日してからも様々な協会イベントに積極的に協力してくれました。張さんは2月末に帰国するまで協会ホームページリニューアルの翻訳に携わり、帰国後も雲南支部のインターンとして引き続き手伝いたいと言ってくれました。

二人は協会の様々な活動を通じ、会員一人一人の小さな支援の心と協会スタッフの地道な努力が大きな力となって、雲南の子どもたちの幸せに繋がることを実感したといい、日本での体験をこれから的人生に生かしたいと語ってくれました。

雲南省玉溪市招商合作局 視察団来日

雲南省玉溪市で企業誘致を担当する招商合作局の李明栄局長兼書記の一一行が、1月25日から29日まで来日しました。同市は雲南省のほぼ中央、昆明市の南部にあり、豊富な地下資源を利用した工業と温暖な気候を生かした農業により、近年目覚しい経済発展を遂げています。李書記一行は、協会法人会員のハウス食品グループ本社株式会社を訪問し、世界各国での市場展開について説明を受けたほか、協会の新井淳一顧問（日本経済研究センター前会長）の紹介で丹羽宇一郎元中国大使の事務所を訪問、経済、文化、教育など多方面に渡って意見交換しました。

協会での会談

李明栄局長兼書記(左)と
丹羽宇一郎元中国大使(右)

ハウス食品グループ本社株式会社



